



**パ**チンパチンと響くはさみの音一。  
 今日の花材は石化やなぎと2種類の菊。中心となるやなぎの曲がりや長さを、真剣な眼差しで見極めていきます。一つとして同じものがないから面白い一。植物を愛し、そのもの持つ<sup>かお</sup>貌を生かすことに心を傾ける『多古華道部』を紹介します。

発足は昭和40年代、町が開催した婦人学級にさかのぼります。平成5年に多古町文化協会の所属となり、現在11名で活動しています。長きにわたる活動を、講師の秋葉さんは「歴代の役員さんが良きまとめ役になってくださったから」と振り返ります。

生け花と聞くと堅苦しく考えがちですが、季節や植物に合わせて生ければ良いのです。フラワーアレンジメントとは異なり、花だけでなく枝ぶりや木の幹、葉や苔<sup>こけ</sup>まで、すべてが材料となるのが特徴。多古華道部が属する「龍生派」には、伝統に基づく「立華・生花」と、型から離れて表現する「自由花」があります。「真<sup>しん</sup>」「行<sup>ぎょう</sup>」「草<sup>そう</sup>」の基本花型・変化花型の練

# サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

## 第40回 生け花サークル 『多古華道部』

- ①活動歴 45年以上
- ②年齢層 50代～80代の女性
- ③活動場所 コミュニティプラザ第4研修室
- ④活動時間 毎月第1・3火曜日  
13:00～16:00
- ⑤代表者 市東ひろ（いちとうひろ）
- ⑥連絡先 ☎76-7050

習を終えると創作課程に入り、その人の個性やセンスで自由に生けていけばよいのですが、決まりがないのは案外難しいもの一。そこで基本となる寸法の取り方や、枝・花の向きや表情のとらえ方などから学び始めます。器や花材によって約束事があり、1本にまとめられた水際から出

る3本の役枝「真<sup>しん</sup>」「副<sup>そえ</sup>」「体<sup>たい</sup>」の美しいバランスを身に付けていくのです。役枝が決まったら「あしらい」となる花を加えていくのですが、あれこれ悩み、なかなかはさみが入られないことも…。そんな時は、秋葉さんが一つの道筋を示してくれます。何年やっけていてもうまくいかない日があり、先代講師の句「極むるに 学びて 遠し 華の道」をしみじみと実感するメンバーです。

「花のある生活は心に潤いを与えてくれる。ここへ来られるのも家族の協力があるから」と、感謝の気持ちを忘れないメンバー。11月1日から3日に開催される文化祭には、それぞれが全く違った花材で取り組んだ作品を出展します。その力作の数々を、ぜひご覧ください。



### 編集後記

★今月は「長寿」にちなんで、めでたく満百歳を迎えられる方や、年齢に関係なく現役で頑張っている方を紹介させていただきます。取材を通して感じたことは、何より皆さんそろって「元氣」なこと★実はわたしにも、共に大正10年生まれで今年87歳になる祖父母がいるのですが、この2人も今回登場した皆さんに負けず劣らず「元氣」なのです★たいぶ耳が遠くなってきた2人ですが、祖父は「愛車」の電動自転車で毎日のように畑仕事や買い物などに出掛け、祖母は炊事・洗濯など家事全般をそつなくこなします。今でも時々「元氣」に口げんかもする2人ですが、この様子ですと、2人そろって満百歳のお祝いをもらうことも夢じゃない？かもしれません。

★闇を引き裂く叫び声。背中を光らせ、触觉を揺らすアイツが次女の部屋に出たという★退治方法は叩くか薬。そしてわが家の最強戦士義母の参戦が必須。後者を選択するも、頼りのジェット噴射が見付からない…：そうこうしている内にアイツを見失ってしまった★薬はないし、義母の出動が遅いのがなんのと怒る次女に「来年から一人暮らしをしたらどうすると、脅しをいれたわたし★このままじゃ寝られないと、普段はゴミ処理場のような部屋を夜中に掃除し始めた次女。アイツもたまには役に立つじゃないの★後日、再び姿を見せた（たぶん）アイツにジェット噴射を丸々1本浴びせ退治したと勝ち誇った顔で報告する次女。でも、一人暮らしの第一関門はアイツじゃなくて「合格」なんですけどね。